

白藍塾オリジナル

2013入試小論文分析&解答のヒント

2013年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・法学部

課題文は明治18年に内閣制度が創設されたころの状況を説明する文章。総理大臣がリーダーシップをとりにくかった事情が説明されている。内容が入り組んでいるし、とりわけ日本史が不得意な人にはとっつきにくい文章だが、きちんと読めば、十分に理解できるはずだ。

文章では、総理大臣がリーダーシップをとりにくかった理由として三点が挙げられている。第一に、維新に功績のあった薩長4人ずつの計8人が政権を独占して、薩長間のバランスを取ろうとしたため、総理大臣がリーダーシップをとろうとしてもうまくいかないことが多かった。第二に、各省と関わりの大きい人物が総理大臣になったので、主導よりは調整を行う必要があった。第三に、憲法を作る際、首相の権限を強くすると、イギリス的な議院内閣制になるのではないかという懸念があった。このようなことから、総理大臣の権限を大きくしようとしたが、それは実現できなかった。

これを読んで、まずは300字ほどで当時の内閣制度の抱えていた問題点をまとめることが求められている。これについては、三つの事情があって総理大臣がリーダーシップをとりにくい状況にあったことを説明すればよい。

次に、文章を踏まえて、現在の内閣総理大臣のリーダーシップのあり方について論じることが求められている。これについては、「現在の内閣総理大臣についても、明治のころと同じようにリーダーシップを取れなくてよいのか」が問われていると考えればよい。よって、「現在の内閣総理大臣はもっとリーダーシップを発揮するべきか」という問題提起をして、あとは白藍塾で学んだ通りに書けばよい。

「リーダーシップを発揮するべきだ」という方向からは、「現在は、震災からの復興やグローバル化による産業構造の変化などに対応するために大きな改革が必要だ。その際、強いリーダーシップがないと改革を実行できない」「リーダーシップを取らないと、すべてが官僚主導になって国民のための政治ができない。国民の意思を尊重するためにも、強いリーダーシップによって内閣の信念を通す必要がある」「リーダーシップがないと政策を実行で

きなくなって、国民が政治への関心を無くし、政治によっては何も変わらないと思ってしまう。国民が政治に関心を持つためにもリーダーシップが必要だ」などの論が可能だ。

逆に、「リーダーシップを強くするべきではない」という方向からは、「一人の権力者がリーダーシップを発揮すると、独裁化して、敵対勢力を攻撃する。現在の日本の民主主義は大衆的な人気を背景にして権力を発揮できる傾向があるので、リーダーシップを重視するのは危険である」「状況が複雑化した現代において、権力者がリーダーシップを発揮して、国民をある一方向に導くのは危険である。間違った方向に導いたとき、取り返しがつかなくなる。むしろ、さまざまな状況での対策をとることのほうが大事である」などの論が可能だ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>